



### 大智寺を開いた初代住職様の法要

かいさんき  
開山忌

10月30日

天高く馬肥ゆる秋、  
何を食べてもおいしい季節となりました。  
さわやかな風の中、  
ススキの穂が白く輝きます。

さて、毎年10月30日には  
大智寺を開かれた初代住職様の法要（開山忌）を執り行います。  
今回は開山様の500年遠忌となりますので、  
事前にお申込みをいただいたお檀家様にも、  
総代様役員様と一緒に参列頂きます。



さて、遠忌というのは、仏教の宗祖やお寺の開山様などに対してのみ営まれます。  
遠忌法要は、祖の教えや願いに立ち返り、  
自らの生き方を見つめなおす節目となる行事です。  
では立ち直って、大智寺の開山様の教え、その願いとは何だったのでしょうか。

言うまでもなく、禅宗では自分の名前、自分の所属、自分の地位、  
最終的に自分が人間であることすら忘れて、  
ただ一個の輝かしい命であるところまで心を空しくしていきます。  
坐禅はその手段として有意義なので、修行に取り入れています。



そして、他の存在も自分の存在も、お互いに素晴らしい命であり、  
その点でまったく差はないことを心の底から体得することで  
自他の距離と境界を越えていきます。  
何にもこだわらず、どこかにとどまることもせず、偏らない  
自由自在の喜びが沸き起こってきます。

この自由自在の心でもって何をなすのか。  
本堂の正面、お賽銭箱の脇に掲げてある言葉をご存知でしょうか。

諸悪莫作（しょあくまくさ） — もろもろの悪をせず  
衆善奉行（しゅうぜんぶぎょう） — もろもろの善を行う

これは七仏通誡偈の前半の偈です。

中国唐の詩人・白居易は禅を好み、禅僧・鳥窠道林に  
「仏教の真髓とは何か」と問うたところ、この偈を示されました。  
白居易は「そんなことは3歳の子供でもわかるではないか」といいましたが、  
道林に「3歳の子供でもわかるが、80歳の老人でもできないだろう」と  
たしなめられた話はあまりに有名です。



「悪いことをせず、善いことをしなさい」  
すべてはこれに尽きます。

これの妨げになる我欲があるから心の修行をするのです。  
「わかっているがなかなかできないことを、できるようにする」それが禅です。  
開山様の願い、それはこの禅の教えを広めることで、  
なんのこだわりもなく、思い切り自由に、善いことに励める喜びを  
多くの人と分かち合いたかったのではないのでしょうか。

# 大智寺だより

平成30年神無月  
Vol.100

発行所  
大智寺

岐阜市山県北野  
668-1  
電話：058-229-1532

《Mail》  
hybsr245@ybb.ne.jp  
《ホームページ》

大智寺

検索

<http://www.daichiji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地  
の水小屋にてご自由にお取り  
いただけます。  
又、当寺ホームページにて  
過去のすべての紙面をご覧いた  
だけます。ご活用ください。

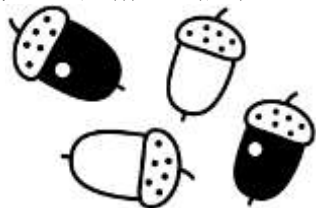
9月号発行部数  
200部

ご愛読  
ありがとうございます

## お彼岸のお参り ありがとうございました



強い台風の翌日、9月5日に弘法様のお参りがありました。  
里5号の方々には台風の影響で大変なところ、朝8時からお出かけいただき、  
きれいにお掃除くださいました。瑞々しいお花が供えられ、  
8時半から住職とお彼岸のお参りを気持ちよく行うことができました。ありがとうございました。



また9月23日には観音様のお参りもありました。  
敬老会の行事と重なっていたにもかかわらず、  
里5号の若手の方々中心に切り盛りしてくださり、  
無事お参りすることができました。  
ありがとうございました

## 大型台風の影響について

9月4日の大型台風では風速40mを越え、岐阜でも各地で大きな被害  
を受けました。大智寺でも木々が5～6本折れてしまいました。  
特に山門前の大杉の枝が落ち、大きな枝だったので和尚2人では  
なんと手が足りず、皆様に御協力を得て何とか処理できました。



ただ、大きな枝が落ちたことによって、葉が茂っている枝がなくなり  
枯れ木同然の姿のため、朽ちるのも時間の問題となり、  
今後根本からの伐採を検討する必要が出てきました。  
また他にも中門脇の瓦土塀の瓦や門の瓦が割れたりしましたが、  
いずれも軽い被害で収まりました。  
「天然記念物に指定されている大ヒノキは大丈夫ですか」とのお電話を遠方  
から頂き、お氣遣いいただきましたが、なんとか無事乗り越えたようです。  
ありがとうございました。

～ 他家の法要に出る機会の少ない奥様のため 若い世代のために ～  
(実際にお寺にご相談いただいたものから抜粋)



## お寺のこと、仏壇のこと、法要のこと etc わからないこと 質問帳 ④



「 家族のへその緒が出てきたんやけど? 」

母親から胎児へ、生命維持に必要なものを送る臍帯(さいたい)であるへその緒。  
これを保管しておく習慣は、日本以外にも東南アジア地域に多く見られます。  
アルコール漬けにし保管する、地中に埋め呪術をかけ子どもの成長を祈る風習などがあるそうです。

日本では、子どもの夜泣きが止まらないときに“へその緒”をなめさせたり  
大病の際に煎じて飲ますなど、危機的状況に陥ったときに効力を発揮すると考えられていました。  
そして一生切り離すことができないものとして長く大切にされていました。

普段は子どもの無事な成長をお祈りするため、仏壇などに保管する方が多いのではないのでしょうか。  
昔は壺や“わらづと”に納め、庭、大黒柱の下、軒下に埋めたり、川や海に流したりしたそうです。

ただ、明治20年以降は、『袍衣及産穢物取締規則』が施行され  
床下や川に流すなどの埋納は禁じられました。

切っても切れない関係を象徴するへその緒、  
母親または自分の棺桶に入れて、最期まで母子の縁を感謝するのが好ましいのではないのでしょうか。

～ 日常を豊かに『発菩提心空拳章（通称：菩提和讃）』 ～



お経のやさしい和訳（和讃）から  
毎日の生活を 心豊かに

大智寺檀信徒日課經典  
31ページより

④8

「 尚たつとぶらにんげんくは人間の 受うくる形かたちは其儘そのままに 」

「面白い逆説ですが、私が自分のありのままを受け入れることができた時、私は変わっていくのです。私たちは、自分の現実の、そのあるがままの姿を十分に受け入れることができるまでは、決して変わることはできません」  
これはアメリカの臨床心理学者であるカール・ロジャーズの言葉です。

生きていく中、どうして私はこうなんだろう、こういう自分が嫌だと思ふことは、何度となくあります。目に露骨に見える容姿や恰好から、精神的な部分、性格や性質に至るまで、自分に十分満足している人は少ないのではないのでしょうか。  
そんな自分をなだめてくれる優しい詩があります。  
「そうさん、そうさん、お鼻が長いのね、そうよ、母さんも長いのよ」（まどみちお）  
小ソウはお鼻が長いと からかわれたとか悪口を言われたとは思わず、褒められたつもりで、嬉しくてたまらないというふう「そうよ」と答えています。  
お母さんは地球上で一番。大好きなお母さんに似ているから自分も素晴らしいのだと、喜んでいます。  
ソウに生まれてうれしいソウの歌を、人間に置き換えて、自分に置き換えて心の中で歌ってみると、素直な気持ちで「尚ぶらくは人間の 受る形は其儘に」と思えるのかもしれない。

今月のひよこ

先月はここ数年来で一番美しく彼岸花が咲き揃ったのではないのでしょうか。カメラを壊してしまった私は一枚も写真を撮れませんでした（笑）皆様のカメラにはいろんな表情の彼岸花が咲いていたことでしょうか。

さて、写真は対象物ではなく、撮る人の心を写すと言われます。禅の世界でも「そこに何を見ているのか」と世に問うた白隠禅師の達磨絵があります。数多くある達磨絵の中にこんな句が書き添えられた一枚があります。

「このつらを祖師の面と見るならば 鼠を捕らぬ猫と知るべし」

どう見ても達磨の絵ですが、達磨と見るなら、あなたは素晴らしいものが転がっているのに手にとらない残念な人だなあ、しっかりと見るよとは、一体どういうことでしょうか？

梁の武帝と達磨大師との問答を思い出します。はるばるインドから中国へ布教にきた達磨大師を前に武帝が聞きます。「一体、あなたは誰だ」達磨大師は「知らん」と。

この顔が誰か当の本人が「知らん」と言っているに、まだ達磨と見るのかい？そんな白隠禅師の声が聞こえてきそつな達磨絵です。

10月5日は達磨忌です。自分が「自分」と思っていたものを捨てたら、そこにあるのは肉のかたまりでしょうか、命の輝きでしょうか。カメラ越しに見た花は「彼岸花」という名の花でしょうか。自分と寸分違わぬ美しさを見たなら、そこに仏様がいたんじゃないでしょうか。

～ シリーズ いますぐできる精進の味 ～

♪ お寺のぶきっちゃんでも簡単に作れた ヘルシーなお味 ♪

素朴な秋の味覚 おやきのおやつ

- ① 里芋3個をレンジまたは蒸し器を使って火を通す。
- ② アツアツの里芋をよくつぶし片栗粉大さじ1程度混ぜて団子を3～4個作る。
- ③ フライパンにサラダ油を熱して平たくした団子を両面焼く。
- ④ 醤油酒みりん大さじ1ずつ混ぜ合わせたタレを入れて絡めたら出来上がり。



あつあつを食べるとおいしいです。小腹が減った時でもお食事の一品にも。お好みで紅ショウガや青ネギ、チーズなど入れると、ボリュームが出ます。

♪ 月に一度はお寺まいり ♪

初心者 大歓迎  
東日本大震災物故者追善供養  
毎月 第四日曜日  
定例写経会

今月の日程

10月28日(日) 一回 500円  
(朝8時~9時) (内 300円は義援金)  
要申込

9月写経会 備忘録

お彼岸の時期、池の彼岸花も真っ赤にそまった日曜日。ようやく暑さも和らぎ、赤ん坊も10か月を迎え少し落ち着いてきたので、久しぶりにお抹茶を出しました。お菓子は両口屋是清のささがたでした。少しずつまた皆様のお力を借りながらお茶菓子をご用意していきたいと思っておりますのでどうぞよろしく申し上げます。



お釈迦様が生きていた頃  
あんな人、こんな人

第十九話 「サッパダーサさん」



「あーあ、私は出家をしてからもう25年にもなる。苦行もしてみた。一生懸命に坐禅もした。だけど、パチンと指をはじく瞬間さえ、静かな心、安らぎの心を得ることができない。快樂の欲情に悩まされてどうしようもない。」  
両腕を突き出して泣きながらサッパダーサさんが祇園精舎の居室から出てきました。

仏教初期の頃の出家者は、ほとんどが釈迦族の人々でした。サッパダーサさんもその一人で、お父さんはお釈迦様の父スッドナーナ王のもとでカピラ城の内閣総理大臣だった人です。

嘆いているサッパダーサさんにお友達が声をかけます。  
「もうだめだ、雑念が途切れなく湧き出てくる。もう死のうと思う」  
そう言ったとき、精舎の中で大騒ぎが起りました。毒蛇が出たので寄ってたかってこれを竹筒に閉じ込めたのです。サッパダーサさんはこの竹筒をもらい受け、精舎の外に出ました。人気のないところで竹筒に手を入れて蛇にかまれて死のうと思ったのです。  
しかしどうしたことかなかなか蛇は手をかみません。  
次にカミソリで死のうと思い、手首にカミソリをあてました。  
その瞬間25年間悩み続けた雑念がス〜ッと消えていきました。  
まるで霧が晴れて雄大なヒマラヤの山々が神々しい姿を現したように、スカッとしました。

ご自宅で お寺で 市営斎場で 営む  
家族葬

ご家族・ご親族のみの家族葬をお考えの場合、ご自宅や市営斎場を会場に営むことができます。

また大智寺を会場にお使い頂くこともできますが、その場合、指定の葬儀社をお寺でご案内致します。必ず前もってご相談ください。

家族葬をご検討される場合は、葬儀社のこと、葬儀会場のことなど含めてまずはお寺までご相談ください。

完全個別永代供養墓

1区画：38万円～  
(墓石代金含む)

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方がいなくても、お寺がご供養させて頂くお墓です。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦・ご家族一緒にひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。永代にわたり、他の方のお骨と混じらないことから「完全個別永代供養墓」といいます。詳しくは、ご見学を含めてご説明しますので、ご予約の上 ご来山ください。